

みょうが（茗荷）は、夏から秋にかけて収穫される香味野菜。種類によって収穫時期が異なり：夏みょうが：7月～8月頃秋みょうが：9月～10月頃。収穫の目安は、葉の根元から花蕾（つぼみ）が顔を出した頃。花が咲く前の、締まりのあるつぼみが最も美味しいとされています。みょうがは独特の香りとシャキシャキした食感が魅力です。

紅葉台



新聞

第195号

2025年

8月16日

発行人：関谷 孝

せっけんで変わる地球環境

今井剛（山口大学大学院創成科学研究科）



2025年7月12日 生協の学習会で興味深い取り組みがありましたので紹介します。「シャボン玉石鹸の島まるごと無添加せっけん生活」一

福岡市にある地島（じしま）は人口140人の小さな島。産業は主に漁業・天然わかめを育てています。この小さな島で3か月間主に石けんを使って環境にどのような影響があるかを調べたのです。この取り組みには宗像市・シャボン玉石鹸・山口大学・九州環境管理協会が協力しました。まさに産・官・学が協力しました。地島の住民への全面的な協力と住民への説明・微生物の調査・水質調査・石鹸の提供を産官学で共同プロジェクトを立ち上げたのです。期間は2021年9月から11月の3か月。洗浄剤を石鹸に切り替えました。その結果、下水処理場の曝気槽で処理水のサンプルをとり、水質検査と共に汚れを分解する微生物の量と種類を調べました。実験の結果は、

① 水質検査 水の中の酸素量は1リットル当たり0.01gしかありません。**酸素が水の中に溶け込む量は思いのほか少なく、酸素がなくなると水生の生き物が生きていけません。**処理水を海洋に放流するときに有機物を含んでいて、そのために水の中の酸素を過剰に消費しないように、BODで規制をかけています。特に水温が上がる夏場に赤潮が発生し酸素が少なくなりそのため魚が大量死するのはそのせいなのです。

② 石鹸に含まれる脂肪酸は増えますが、これはむしろ魚の餌になります。汚水を分解する微生物（下水処理場を見学すると最終的には微生物が汚泥を分解し水をきれいにしています）の種類と量が増えます。**石鹸は微生物にとって生育を促す働きがあります。**

また、興味深かったのはわかめの幼芽の生育の影響実

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

験です。わかめを10倍に希釈した合成洗剤・石けん・海水に浸すと明らかに石鹸に浸したものが大きく生育しました。反対に合成洗剤は小さくなり中には色素が亡くなり溶けてしまったものがありました。石鹸は環境にいい影響を与えています。合成洗剤は生き物にはよくない証拠です。

この実験から、「石鹸に切り替えたことで微生物の量・種類が増えた。石鹸はわかめの生育に影響を与えない。それどころか生育を促進させた。地島の住民がこの取り組みを通し環境に関心持つことが出来た。石鹸と合成洗剤のちがいを知ることが出来た」といえます。そもそも合成洗剤は生態系に悪影響を与えることが以前から懸念されています。**石鹸は微生物の多様性を高め、下水処理場の環境を改善することが分かりました。**

いまや合成洗剤はTVコマーシャルで大々的に宣伝していますが、原料は石油由来。化学合成し自然界にはない界面活性剤が使われています。そのため自然界では分解されません。一方石鹸は天然由来の牛皮やヤシ油などで出来ています。**天然の界面活性剤なので最後は水と二酸化炭素に分解されます。**



私はかつて廃油と苛性ソーダーで石鹸を作っていました。それは合成洗剤が経皮毒で環境に放出されても分解されず生き物に悪い影響を与えるからで

す。服に残った合成洗剤は皮膚浸透します。手荒れや湿疹もそのせいです。我が家では石鹸を使っています。食器などは熱いお湯で洗えば石鹸は不要です。かつて長い歴史の中でここ数年洗剤を大量に使うようになりました。考えてみてください、食器、洗濯、風呂掃除、歯磨き等生活の中で水を汚しているのは合成洗剤が圧倒的に多いです。私達消費者が関心をもつことで企業も環境に配慮するようになってきています。**水は命の源。汚れた水はまわりまわって私たちの体に帰ってきます。そう思うと環境問題は他人ごとではなくなりそうですね。（猫島で有名）**